

義太夫

義太夫協会会報 第 104 号

平成 29 年 1 月 1 日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒104-0045

東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 17F

Tel. 03(3541)5471

Fax. 03(3546)2334

<http://www.gidayu.or.jp>

新「文化省」の創設

義太夫協会会長 原 道生

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

さて、いきなり私事にわたって恐縮ではありますが、昨午五月、私が本協会の会長に選任していただきましてから、早くも半年余りが経過いたしました。

その間、不慣れな私にとりましては、協会運営のすべてが、全く新しい体験でありましたが、そのうち、ここでは、協会の今後にも深く関わる事柄として、特に印象に残った二つの会合についてご紹介をしておきたいと思えます。

まずその一つは、本協会に対する文化庁よりの補助金につき、その配分を担当された専門家の方々から、その決定に際しての評価が直接伝えられるという「意見交換会」についてです。

その会は、先方四名、当方五名という小規模な集まりで、和やかな雰囲気の中、先方のどなたもが、義太夫協会の活動全体を好意的に理解され、高い評価を与えて下さっていることが知らされて、大変安堵いたしました次第です。

ただし、その際感じた少々品性に欠ける本心というならば、それならもつと助成額を上げてくれればよいのにという気もしないではありませんでした。実際のところでは、文化庁から出される補助金の予算総額には当然上限があり、その範囲内のものが、私どもにとつての同業者ともいえるべき伝統芸能関係の諸団体に配分されるという仕組みになっているわけですから、仮に本協会が不当な程に高額なものを得られたとすれば、その分、どこか身近の他の団体が大幅な削減を蒙るといふ余り後味のよくない結果が生ずるということになってしまふでしょう。

そうした問題を解決するためには、国家予算全体の中での文化領域に対する配分を大幅

に増額してもらふ他はないものと思われます。そして、それへの具体的な対応策の一つとしては、ここ数年來、「文化庁」を「文化省」へと格上げすることを要求するという運動が広く進められており、本協会も私の名義で、趣旨賛同の意思表示をしています。

折から、右の「意見交換会」の約一ヶ月後、文化芸術推進フォーラムという組織により、二〇二〇年を期しての文化省創設の実現を要請するための集会が「五輪の年には文化省」の宣言のもとに新国立劇場で盛況のうちに催されました。これが、私の出席した、もう一つの印象的な会合です。

新たに創設が望まれている「文化省」が、新旧の文化全般に対するリスpekクトに強く支えられた機関となることを期待したいと思えます。



はら みちお

昭和十一年、東京都生まれ。東京大学大学院中退。横浜国立大学助教授を経て、明治大学文学部教授。退職後、同大学名誉教授。現在、義太夫協会会長、義太夫教室入門コース

「義太夫節の歴史」担当、清栄会理事。瑞宝中授章、日本演劇学会河竹賞、角川源義賞（文学研究部門）受章。著書に『近松浄瑠璃の作劇法』（八木書店）、『近松門左衛門（新潮古典文学アルバム）』（新潮社）、『古典に見る日本人の生と死』（共著、笠間書院）、『近松浄瑠璃集（新日本古典文学大系）』（共著、岩波書店）など。

初舞台ご報告

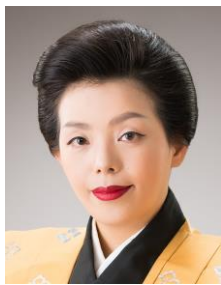
昨年義太夫協会として五年ぶりに、正会員の太夫二名―竹本孝矢（たかや／越孝門下／写真上）と、竹本寿々女（すずめ／駒之助門下／写真下）が誕生しました。

協会では普及事業の一環として、毎年義太夫教室を開催し、今年で七十年の節目を迎えますが、卒業後にプロを目指す受講生もあり、今回初舞台の二人も、教室の卒業生です。

去る六月二二日の定期公演にてお披露目が行われ、当日の紀尾井ホールロビーには、二人の門出を祝う花が立ち並び、華やかな雰囲気になりました。

演奏は、孝矢が「仮名手本忠臣蔵」裏門の段、寿々女が「三十三間堂棟木由来」木遣り音頭の段を語りました。

初舞台当日を振り返り、「師匠・先輩方に助けて頂き、感謝の気持ちで一杯でした」という孝矢と寿々女。先輩方も各々自分の初舞台当時を思い出していたのではないのでしょうか。二人の緊張感が楽屋全体に伝播していました。先輩の背中を追いながら、長い道程を歩み始めた孝矢と寿々女。どうぞ末長い応援、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い致します。



プロ養成講座始動

本協会では、昨年より新人養成のための特別研修を始めました。現在女性の希望者一人が研修生となり、語りと三味線の研修を受けております（国立劇場養成事業のような学校形式ではありません）。約半年間の研修後、太夫・三味線のどちらかを選び、プロとして希望の師匠に入門、本格的な修行に入るという予定になっています。本人のやる気も十分で、週三回のお勤めの傍ら熱心に稽古に励んでいます。申込みは随時受け付けております。パンフレットもごございますのでお気軽に協会までお問い合わせ下さい。（研修部）

義太夫教室七十周年

記念冊子の作成

一九四八（昭和二三）年に第一期がスタートした義太夫教室は、来年度で七十周年を迎えます。そこで、義太夫協会では普及部を中心にプロジェクトチームを立ち上げ、七十周年記念冊子を刊行することといたしました。二〇一八年三月（予定）のOB会での刊行を目指し、現在、内容や体裁の検討を進めております。

今後、各期の教室OBの方々に当時の思い出を伺うなど、ご協力をお願いをしてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

（普及部）

本牧亭を聞く会 その8

二代目綾之助師の堀川猿廻し

SEIBI工房 鳥居 誠

昨年九月に開催いたしました「本牧亭を聞く会 その8」でお聞かせした昭和三四年一月一日の二代目綾之助・三生コンビによる「近頃河原の達引 堀川猿廻しの段」は、これまでデジタル化してきた本牧亭での録音としては、義太夫協会保有の音源の中ではもっとも古いものです。二代目綾之助師がお亡くなりになる十一か月前の録音であることを考えると、わずかに残るSPレコードのもの以外では二代目綾之助唯一の完全版の録音ということになります。

幸いなことにこれを収録していたテープは保存状態も良く、七十分弱かかるこの演目を途中A面面のかけかえ部分と最後のわずかな部分が欠如しているだけで、その全容がほぼ完全な状態で収録されていました。当時のテープの収録時間がA面面で公称六十分（実質六二〜六四分）だったことを考えるとまさしく奇跡的な録音といえます。

また、この会を通じて新たに古い女流義太夫の記録テープが発見されたという情報もございいます。これからも後世に残す価値のある音源を一つでも多くデジタル化して行きたいと考えております。

本録音のCDを販売中です。
11ページの広告をご覧ください。

女流義太夫と祖先祭

―竹本素女歿後五十年に因んで―

水野 悠子

平成二十七年の祖先祭（十月十二日）で「犬猫供養塔」八十年の来歴をお話しさせて頂きました。設立発起人にも開眼式の挨拶にも女流義太夫が一人もいないことに疑問を感じました。調べてみると、当時の女流義太夫は組織に加入していなかったこと、したがって組織の総会を兼ねていた祖先祭にも出席していなかったことがわかってきたのです。

祖先祭の発足は明治二十七年（一八九四）頃と思われます。明治期の祖先祭事情は資料が少なくはつきりしないのですが、少なくとも、大正十二年（一九二三）、関東大震災後に組織された「大日本義太夫因会」以降の祖先祭に女流の参加は見られません。

変化が起きたのは、犬猫供養塔開眼式の翌日（昭和十年十二月十五日）に行われた総会兼祖先祭でした。従来の組織を「日本帝都義太夫因会」と改組し、女子部を創設することが決議されたのです。その結果、昭和十一年（一九三六）、九五名の女流が組織に加入し、同年の祖先祭では、女子部理事長に選出された竹本素女が挨拶をしています。現代では女性の役員の挨拶も珍しくはありませんが、八十年前に、素女が因会女子部理事長という肩書きを背負って挨拶に立ったことは、女流義

太夫の歴史において初の劃期的な出来事だったのではないのでしょうか。

素女率いる因会女子部は、明治座で大々的な創立記念大会を開き（昭和十一年十一月二十八日）、昭和十八年（一九四三）まで春秋の大会を続けますが、戦局が厳しくなり中断。その後も、昭和二十五年（一九五〇）に「女流義太夫連盟」が結成されるまで、女流の総力を結集した活動は行われませんでした。

「女流義太夫の復興と後進の育成」を目的とした女流義太夫連盟、代表に就任したのは竹本素女、事務所は素女の自宅に置かれます。翌二六年、連盟が発足させた本牧亭での定期公演が、今日の国立演芸場、お江戸日本橋亭、紀尾井ホールでの月例公演に継承されていることを思えば、戦後の女流義太夫公演の基礎



は素女が築いたと言っても過言ではないでしょう。

昨年は、女流義太夫が祖先祭に参加するようになって八十年、つまり女流が組織に加入し、運営に携わるようになって八十年という年でした。また、戦前の女子部創設、戦後の連盟結成という大きな節目において、女流義太夫の長として重要な役割を果たした竹本素

女の歿後五十年でもありました。大御所・素女の遺徳を偲んで、会場には、写真と番付、生花（村岡清子氏の御寄贈による）を供えたコーナーが設けられたのでした。

（平成二八年十月八日両国回向院にて）

淡路だより2

鶴澤友路師匠は昨年十二月に御歳百三歳を迎えられ、大変お元気に過ごされております。友路師一門の私どもにとつて何よりも有難く、いつまでもお健やかにすごしていただきたいと願っております。（※）

私が日頃舞台を務めております、淡路人形座では、七年前より途絶えてしまった演目の復活に取り組んでおります。昨年九月の「女流義太夫演奏会」で演奏させていただいた「玉藻前囃子」神泉苑の段もこの復活演目の中の一つです。今回、

このお話を聞いた時は驚きでしたが、淡路ならではの曲を東京で演奏させていただくことは大変光栄で嬉しく思いました。昨年暮れには復活十一作品目「播州血屋敷」青山館の段、忠太物狂いの段を上演致しまし



淡路人形座 神泉苑の段

た。「忠太物狂いの段」では淡路の昔の演出通り、何と十三回も早替りをし、お客様に大変好評でした。

今年一月には国立劇場開場五十周年記念の公演にお呼びいただき、是非ともこの演目でいうことで「賤ヶ嶽七本槍」の清光尼庵室の段と七勇士勢揃いの段を上演させて頂きます。このように淡路ならではの演目を望まれることが多くなってきました。

淡路にこのような演目を残して下さった先人の方々、浄瑠璃のすばらしさを伝えて下さった友路師匠に感謝しつつ、貴重な淡路の財産を大切に守り、伝えていきたいと思います。

(鶴澤友勇)

※鶴澤友路師は、本会報校了日の平成二八年十二月十三日に急逝されました。謹んでお悔やみ申し上げます。次号にて追悼記事を掲載予定です。

竹本このしろ

昨年歌舞伎界では、五代雀右衛門・八代芝翫襲名、国立劇場開場五十周年記念、等の公演が賑々しく開催されました。ただいま竹本連中は、太夫十四名、三味線十四名が松竹株式会社と専属契約を結び、毎月の公演に出演しております。

その内の九割が国立劇場歌舞伎音楽研修(竹本)の修了生ですが、九月に評判を呼びました大曲、「吉野川」の背山(葵太夫・慎治)・妹山(愛太夫・淳一郎)【写真】は、両床とも研修出身者でした。養成開始より四二年…。

毎期義太夫協会の役員・正会員の皆様にご協力頂き、育てて頂きました成果が現れた記念的舞台でした。

現在第二二期生が受講中で、この三月中旬に修了発表会を行い、四月から正式に竹本連中の一員となります。四月開講の第二三期生も一月末日まで募集中ですので、ご興味の向きは、国立劇場養成課(〇三三二六五七一一五)へお問い合わせ願います。

また、伝統歌舞伎保存会では、「竹本床本デジタル化事業」を進行中で、松竹大谷図書館蔵書の鏡太夫(六代菊五郎付き)・寿太夫(関西で活躍)両師の床本を写真撮影し、デジタル資料に遺して



頂いております。これは、現行演目のルーツとも申すべき貴重書を劣化させることなく、閲覧に資することを目的としております。「歌舞伎に携わる演奏家名鑑」の新版も新春に発売の予定です(伝統歌舞伎保存会HPをご覧ください)。歌舞伎座タワーにあります。

「歌舞伎座ギャラリー」では、昨年より「歌舞伎座ギャラリー演奏会」が毎月開催され、竹本も四回出演いたしました。「千本桜」の通し上演にちなんで、劇中使用のメリヤスの実演と解説をしたり、ふだん竹本が語る事のない「コトバ」の入った「裏門」等、珍品もありました。六百円のギャラリー入場料だけでご鑑賞頂けます。日程は松竹のサイト「歌舞伎美人」での告知にご注目願います。

さて、私事にわたりますが、このところ若手の指導をする機会がとて増えました。先輩から教わってきた事・わずかながら自分の経験からひらめいた事・等をお伝えするのですが、やはり私自身がきちんとしていないといけない、と反省させられます。しかし、その反省がまた自身の稽古にもなりまして、師匠方の「人の稽古は自分の稽古でもある」との教えが、よく解りました。

二十歳くらいの頃、亡き歌右衛門丈から舞台裏で呼び止められ、「葵さん、モニターで毎日聞いていますよ。良くおなんすった。…でもね、この仕事は先が長い。あせつちやいけない。ひとつひとつ積み重ねてね。お願いしますよ」とお言葉を賜った事があります。五六歳になりましたが、改めて積み重ねの大切さを思い、若手との稽古でもっともつと勉強して、きちんとした歌舞伎義太夫を語れる様になりたいと思います。

本年も歌舞伎をご最良にお願い申し上げます。

(竹本葵太夫)



写真提供：
(公財) 新日鉄住金文化財団

内容の公演
であった。
(鶴澤
三寿々)

韓国公演「伝統へのまなざし」に 出演

二〇一六年九月二三・二四日、ソウルの南山国楽堂で開催された日韓音楽交流公演「伝統へのまなざし」(主催・新日鉄住金文化財団)に、竹本越孝、鶴澤三寿々、鶴澤弥々、八王子車人形が出演した。

演目は「葛の葉」と題し、(葛の葉子別れ)〈蘭菊の乱れ〉(信田の森)の三つの場面による作品。前の二つの場面は古典からの抜粋で、最後の「信田の森」は説経節に残る童子と葛の葉の再会場面を義太夫節として語れるよう、今回新たに詞章と節を構成した。

当日の会場は大入り。プログラムには、他に日本の尺八独奏や三曲、韓国の大琴(テグム)シナウイもあり、徳丸吉彦と李知宣による日韓両語による解説も加わって、実り多い

韓国「安山国楽団」公演に出演

昨年九月下旬から十月初旬、韓国の安山国楽団に参加しました。この楽団はカヤグムという琴、イグムという胡弓など韓国特有の楽器で構成されており、他のアジア各国からゲストが参加するという試みに日本からは尺八と三味線の参加でした。二日間のリハのあと三日目に安山市ホールでの公演、四日目・五日目はバスで四時間移動して山清郡での公演という行程でした。驚いたのはホールでは転調、変拍子の多い現代曲であったのに対し、山清郡では民謡歌手の伴奏、綱渡りの見世物の効果音まで多彩にこなす楽団の演奏力！



それについていくことももちろん大変でしたが、言葉の壁にも悩まされました。身振り手振りや翻訳アプリに助けられ、何とかコミュニケーションがとれるようになった頃には帰国となりました。写真はアジア各国ゲストの皆さんと。中国、モンゴル、タイ、ウズベキスタン、ベトナム等々。衣装もそれぞれですが、彼らの楽器も日本のものと似ていたり違っていたり、とても興味深いものでした。
(鶴澤津賀榮)

K A A T 竹本駒之助公演第七弾

『摂州合邦辻』下の巻ノ切「合邦内の段」

神津 武男

神奈川芸術劇場での「竹本駒之助公演」は、二〇一一年秋の初回以来、年度に二回づつ開催して、第七弾を数えた。今回の演目は、駒之助師の強い御希望による選曲である。これまでも手掛けたことはあったが、鶴澤津賀寿さんと丸一段するのは初めてであると承った。同所公演には毎回、新しい、意欲的な演目を披露していただいており、有難いことと思う。

今回演奏前の解説を準備する中で気付いた点を紹介したい。それは「合邦内」の作中の年代設定を「鎌倉幕府最後の年」と特定したことである。根拠は、合邦の詞に「今の相模入道殿の世に成て。佞人共に讒言しられ。浪人して廿余年。」とあることで、相模入道・北条高時の代になつて浪人して、かつ高時はまだ現役だというのが大枠。執権後継指名から鎌倉幕府滅亡までの二二年間が「相模入道殿の世」である。玉手御前の生年「寅の年」を正和三年(一一三四)とみると、高時そして鎌倉幕府最後の年、南朝元弘三年・北朝正慶二年(一一三三)に数えの二十才「十九や廿の年栄」になる。

時代物は年を明示し、世話物は年を明記しないというのが浄瑠璃本の文法であるが、時代物でありながら上下二巻構成を採り、かつ

年を明記しない『撰州合邦辻』は異色な作品である。しかし裏付けとなる年代設定は厳密を極めていて、浄瑠璃本の作者に油断はない（本作は、初代菅専助）、と改めて気付くことが出来た。

国立劇場開場五十周年

記念邦楽鑑賞会

国立劇場制作部 石橋 幹 己

作秋十月八日から十日の三日間、国立劇場で邦楽鑑賞会が開催された。国立劇場開場五十周年を記念し、各種浄瑠璃や長唄三曲など多彩な種目を取り上げられた豪華演奏会だった。出演陣にも各界を代表する人名手が集い、総勢十六名の人間国宝をはじめ各家元や重鎮が一堂に会した。

女流義太夫からは竹本駒之助、鶴澤津賀寿、鶴澤寛也にご出演賜り「ひらかな盛衰記―神崎揚屋の段」を演奏していただいた。勘当された源太に功を立てさせるため金の工面に心を砕く傾城梅ヶ枝。一途な想いが仏心に通じ（実は母延寿の計らいで）奇瑞を起こすという筋である。駒之助師の十八番の一つで、今回の語りも素晴らしかった。梅ヶ枝は決して賢い人物ではないが、源太へ真っ直ぐな愛情を注いでいる。傾城らしい優美な言葉の裏には、確たる信念が貫徹する。津賀寿師の三味線もそれを巧みに導き、寛也師のツレも繊細

に彩った。三下りの歌には哀愁が漂い、揚屋らしい遊興の雰囲気や艶やかに演出した。私などはあの歌が聞こえてくると、梅ヶ枝はこれから自死を決意するのではないかと、浄瑠璃によくあるような悲慘な最期を想像をしてしまうのだが、本作は決してそういう結末を辿らない。

梅ヶ枝は希望を持って様々な手段を尽くすのである。死んで来世で結ばれるという選択を取らないで、あくまで現世で望みを叶えようと努力する。源太の切腹を退けた上で、今の世に必死に生き抜くのだ。その真っ直ぐな姿には、一所懸命に生きようとする人間の営みが証明されているようで、とみに胸が熱くなる。どうにもならない窮地でも、何処かに望みはあるはずだと。

そういえば、五十年前の国立劇場開場記念公演では、「寿連理の松―湊町の段」が上演されていた。お夏清十郎、小半徳次郎がともに夫婦仲になるという筋のとても目出度い浄瑠璃だ。「神崎揚屋」と一概には比べることはできないものの、昭和の名人・豊竹小仙と豊澤猿幸によって、その物語が情趣豊かに描かれていた。真摯に生きた葉う望みもある。そう、小仙師・猿幸師が物語っているようだった。

ときに、演奏家の意志が語りに現れることがある。浄瑠璃や三味線の人柄等がふいに登場人物に重なるのだ。今を誠実に生きること。平成の名人の語りの一つ一つには、浄瑠璃よりも多くの力強い言葉が籠っていた。死を避

け懸命に生き抜こうとする物語には、現在を生きる演奏家の志がにじみ出てくることがある。また、浄瑠璃を聴きに行きたくなった。



「第七回 花のように香れ 女流義太夫」の公演を終えて

平成二六年年六月十四日に始まったこの公演も、平成二八年十月十一日の公演で第七回を迎えました。

第一回到、駒之助師匠が「絵本太功記 妙心寺の段」を一段語って下さり、これを課題曲として、第二回目から前半部分を津賀寿さん、駒治さんに三味線を弾いていただき、越里、京之助、綾一の順で二回勉強致しました。この第七回から後半部分に進み、綾一から駒治さんに三味線を弾いていただきました。順番に京之助、越里と続きます。

よく義太夫のお稽古は「太十に始まり、太十に終わる」と言われますが、この「妙心寺の段」は、上手く語れば、「太十(尼ヶ崎の段)」も食ってしまうと言われるほど重要な場面だそうです。駒之助師匠がこの演目を課題曲に選んで下さり、何度もお稽古して下さい、こんなにありがたいことはありません。大変貴重な勉強の機会をいただき、只々感謝です。

また、景事物は語り物と発声が違って歌うように語ります。この発声を習得するのがまた難儀です。が、私たちは一生懸命チャレンジしています。

会を立ち上げてくださった児玉信先生、駒之助師匠、先輩方、お客様方の暖かいご指導、ご支援に比べられるよう、これからも「妙心寺の段」と景事物と、精一杯勉強して参ります。

(竹本綾一)

偉大なお孫さんを持たれた 竹本八重子さん

私の大好きな番組のファミリーヒストリーから水野さんを通してお話をいただいた時、エーッと驚いたと同時にちよっぴり嬉しく思いました。フランスの大きな勲章を受賞なさった監督、北野武氏のルーツをたどる大切な番組の何秒かでもふれられるという貴重な体験は、ミーハー族の私にはとても興味深い事でした。撮影現場となった、北総の小江戸ともいわれる千葉県佐原市も、とても情緒のある街並みで、その一角にある醤油問屋を借りきつての撮影でした。家具調度品いづれも由緒ありそうで、中でもけやきの三味線箏はとても素敵で家主さんの往時の生活がしのばれました。

これまで何度もドラマや舞台で武さんご一家の物語はとりあげられました。そのおばあ様役は、草笛光子さん、樹木希林さん、音無美紀子さん、芸達者な女優さん達がつとめられました。やはり北野家の要です。武さんはお弟子さんにグレート義太夫と名づけています。おばあ様の日頃稽古をしている姿や音が、きつと頭のすみに残っていたのでしよう。

(竹本綾之助)

NHK総合「ファミリーヒストリー」北野武さん
二〇一六年十二月二日(木)午後七時三十分
放送されました。

女流義太夫ゆかりのビル 神楽坂に三月完成予定

平成二八年の夏、義太夫協会に一本の電話がありました。お話を伺うと、戦前に太夫・三味線の両方で活躍なさった竹本綱昇さんのお孫さんとのこと。詳しい内容をお孫さんの町山哲也さんから紹介いただきます。

平成二十年に九八歳で亡くなった祖母が残した新宿区神楽坂四丁目の家を商業ビルへと建て替えることになり、祖母への想いを形にして残したいと考え、館名に芸名を冠すること、記念碑を建立することを思いつきました。

その旨を義太夫協会様と生前に祖母が取材にご協力をしたご縁のある水野悠子先生にご相談申し上げましたところ、快く制作にご協力いただけることになりました。

竹本綱昇の足跡と女流義太夫の歴史を記した記念碑を設置した『神楽坂つなしようテラス』は今年三月に完成いたします。

実は新宿区も今回のプロジェクトを神楽坂の町づくりにつながると考え、周辺の開発などでご支援いただくことになりました。

祖母が生前愛した『義太夫』と『神楽坂』、そして『家族』。それを表す記念碑をとの端緒が結果的にその三者をつなぐプロジェクトとなったことに幸せなご縁を感じております。

義太夫協会様と水野悠子先生には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

町山哲也

ほんに気がメーりヤス

(十八杯目)

皆様、明けましておめでとうございます。昨年もいろんな事が起こっては消え、消えてはまた起こり、そして消えていきまじたり相次ぐ不倫報道、不祥事、情報改ざん等等、万事スローな（この原稿の締め切りもだいぶ過ぎてしまいました）私だけがそう感じるのかもしれないが、とにかく速い。現れるのも、消えるのも。そして、それらに自分も含めた人が踊り、踊らされ、そして忘れるのも。

電磁媒体ベースで動く情報社会の中で、ある情報はコピーやリツイートで爆発的に拡散する一方、不都合な情報は消し跡を残さずに葬り去られる。一年もしたら、様々の暴言で名を売り、一国の長に成り上がったアノお方の印象もすっかり変わっているのでは、と思ってしまう（無論、これからの政治手腕次第であることはいうまでもありません）。毎度関係ない話題で始まりますが、これも全て「気が滅入りやんす」をきっかけに、音楽の話に持って行く、ということでお許しください。

さて、その滅入りやすい私に「かア〜つつ」だった体験二つのお話です。

一つは、禪寺修行体験。

好きで始めたはずのこの仕事も、半年も出演が続くと「もう一杯です」みたいなことになつてしまう私、今回のリセットプログラム

として、いわゆる雲水さんのような生活を体験できる臨済宗系のお寺に行つて参りました。で、いざ座禅を組んで、何も考えず、ただ呼吸に集中する、これができない。あれだけあこがれていた「何もしない、考えない」が、自分でも驚くほどできない。

休む、というのは、大事であると同時に、実は難しい、という実感を得た休演月を経て、市川海老蔵丈主演の博多座「石川五右衛門」



に出演。そこで、津軽三味線の上妻宏光さんと再び一緒にさせて頂きました。

で、今回の写真は、やはりご一緒した元「鼓童」の太鼓演奏家辻勝さん（写真後列左から三人目）、竹本連中、そして私の旧友とその友人も交えて食事に出かけた際の一枚です。

その席で上妻さん（写真前列中央）が「休符を感じられない音楽は良くない」と言うお話をされていたのが印象的でした。

上妻さんといえば、通常の人が二つしか入れられない間に、四つ、どうかするとその倍くらいの音を並べる華麗な撥さばきが、目にも耳にも心地よいことで有名ですが、意外にもその秘訣は、音のない部分（三味線の場合、休符だけでなく、音が続いている部分も含む）、休みのところをきっちり取る、ということにある、というのをご本人の口から伺い、同席した竹本連中、知人のデザイン書家、オカリナ奏者はじめ一同、同意・感心することしきりでした。

即ちそれが芸の余裕につながっているのだ、ということ、食事と共にご馳走になった次第です。

禪における「無」の体験がもたらす効能は、昨今はやりのマインドフルネスでも科学的に証明されているようですが、一芸に秀でた方というのは、体でそれを理解している。

情報に押し流されている、せわしい世の中だ、と滅入ってしまうのは、実は自分に余裕がないだけなのだ、と、反省させられた博多の夜でした。

（鶴澤慎治）

■協会・正会員の主な動き■

平成二八年七月～十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月二十日(水) お江戸日本橋亭

八月二十日(土) お江戸日本橋亭

九月二十日(火) お江戸日本橋亭

十月二十六日(水) 国立演芸場

十一月二十日(日) お江戸日本橋亭

十二月十七日(土) 紀尾井小ホール(共催)

NHK厚生文化事業団)

「本牧亭を聴く会」

九月二十五日(日) お江戸日本橋亭

正会員主催公演／依頼公演(*印)

「じよぎ」 七月一・二日、九月一・二日、

十一月一・二日 お江戸上野広小路亭

「ぎだゆう座」 八月一・二日、十月一・二

日、十二月一・二日 お江戸上野広小路亭

「女流義太夫スペシャルライブ Vol.6」

七月二十八・二十九日 神楽坂ザ・グリ

「奈佐原文楽」小江戸とちぎ」

九月十九日 栃木市文化会館小ホール*

「女流義太夫 涙と笑い2」

九月二十四日 浅草公会堂第二集会室

「第七回花のように香れ 女流義太夫」

十月二一日 蔵市立文化ホールくるる*

「第九回 土佐恵の会」

十一月六日 内幸町ホール

「義太夫節演奏研究会 第一回研究成果報告
会」 十一月二七日 東京藝術大学

【普及】

義太夫協会主催教室

(会場…豊川稲荷文化会館)

◆義太夫・三味線一日体験教室

八月二七日 講師 竹本土佐子・鶴澤三寿々

◆第六九期義太夫教室 実践コース(前期)

九月八日～十二月二二日

その他依頼事業

◇新宿区夏休みこども文化体験プログラム

七月二九日 新宿・芸能花伝舎

◇島根県益田糸操り人形保存事業への語り・

三味線講師派遣 十一月～平成二九年一月

【人材育成】

新人養成特別研修制度(プロフェッショナル

な演奏家の育成) 一名研修中。大学等教育

機関、郷土芸能団体等への広報活動継続中

【運営】

祖先祭 十月八日 回向院

平成二八年度第三回理事会 十月二十日

義太夫協会事務局

【その他】

□義太夫協会記録音源CD第九弾「近頃河原
の達引 堀川猿廻しの段」 九月二五日発売□NHK総合テレビ「ファミリーヒストリー
北野武」十二月二一日放送分への協力□文化芸術推進フォーラム提唱文化省創設キ
ャンペーン「五輪の年には文化省」への協力

*ご賛同の表明はこちらへ

<https://ac-forum.jp/to2020/>

■今後の協会・正会員の予定■

事務局からのお知らせ 義太夫協会の事務局は

平成二九年六月、日本橋に移転いたします。新事
務所は、「お江戸日本橋亭」のある日本橋永谷ビ
ル2Fです。具体的な移転スケジュールは追って
webサイト等でお知らせいたします。

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日(金) お江戸日本橋亭

二月二十日(月) お江戸日本橋亭

三月二十日(月・祝) お江戸日本橋亭

四月二九日(土・祝) 紀尾井小ホール

五月二十日(土) お江戸日本橋亭

六月二十日(火) お江戸日本橋亭

七月十七日(月・祝) 紀尾井小ホール

*詳細は公演予定一覧表をご参照ください。

正会員主催公演／依頼公演(*印)

「ぎだゆう座初春公演」

一月七日(土) お江戸両国亭

「じよぎ」 三月一・二日(百回記念公演)、

平成29年度女流義太夫演奏会 公演日程(予定)		
日 時	会 場	開演時間
4月29日(土・祝)	紀尾井小ホール	13時
5月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時
6月20日(火)	お江戸日本橋亭	18時30分
7月17日(月・祝)	紀尾井小ホール	13時
8月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時
9月20日(水)	お江戸日本橋亭	18時30分
10月21日(土)	お江戸日本橋亭	13時
11月20日(月)	お江戸日本橋亭	18時30分
12月16日(土)	紀尾井小ホール	13時
1月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時
2月21日(水)	国立演芸場	18時30分
3月20日(火)	お江戸日本橋亭	18時30分

平成28年12月1日現在

五月一・二日、七月一・二日

お江戸上野広小路亭

「ぎだゆう座」 二月一・二日、四月一・二日、六月一・二日 お江戸上野広小路亭

「女流義太夫スペシャルライブ Vol.7」

一月八日(日)・九日(月・祝)

神楽坂ザ・グリーン

「第三回弓弦葉の会」

一月十五日(日) 紀尾井小ホール

「第八回花のように香れ 女流義太夫」二月十一日(土・祝) 蔵市立文化ホールくるる*

「第四七回邦楽演奏会」

二月二十五日(土) 国立劇場小劇場*

奈佐原文楽公演

「生写朝顔話 宿屋から大井川の段」

三月二十六日(日) 鹿沼市民文化センター*

「第十五回はなやぐらの会」

四月十六日(日) 紀尾井小ホール

「第一回瑠璃の会」

四月二二日(土) 大阪・御霊神社

「ひとみ座乙女文楽」五月三日(水)・四日(木)

ひとみ座アトリエ*

「第九回花のように香れ 女流義太夫」六月二五日(日) 蔵市立文化ホールくるる*

公演等の詳しいご案内、最新情報は義太夫協会ウェブサイトをご覧ください

【普及】

義太夫協会主催教室／文化庁委託事業教室

(会場：豊川稲荷文化会館)

◆義太夫・三味線一日体験教室

二月十八日 講師 竹本土佐恵・鶴澤弥栄

四月二二日 講師 竹本越京・鶴澤津賀榮

◆第六九期義太夫教室 実践コース(後期)

一月五日～三月二三日

第六九期義太夫教室卒業発表会・OB演奏会

三月十一日(土) 鳥越神社白鳥会館

◆第七十期義太夫教室 入門コース

五月二七日～七月二二日

文化庁主催「芸術文化による子供のための育成事業」(制作：古典空間)

◆学校巡回公演「語ってみよう! 義太夫節!」

事前ワークショップと本公演 巡回地

域：東京・千葉・茨城・山梨

【人材育成】

新人養成特別研修制度(プロフェッショナルな演奏家の育成) 一名研修中

【運営】

平成二八年度第四回理事会 二月中旬予定

平成二九年度第一回理事会 五月上旬予定

平成二九年度通常総会 五月下旬予定

■寄付・寄贈■

昨年六月～十二月までに左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。

日本素義会様 五万円

石山岩男様 一万円

小尾洋介様 義太夫SPレコード三二枚

渡部洋子様 協会所蔵義太夫資料の電子化

一式

林 操様(竹本弥周師ご遺族) 女流義太夫・文楽(放送)音源オープンテープ、

女流義太夫・本牧亭等の各種資料一式

小野寺彰様 早稲田大学演劇博物館 並木

宗輔展図録、豊竹山城少掾展図録各一冊

田村進一様 首都圏図書館義太夫DVD所

蔵リスト、NHK-FM義太夫放送記録

一覧、NHK-FM義太夫放送録音CD

三十枚

掲載広告大募集!

義太夫協会では、会報に広告を掲載してくださる方を募集しております。一回限りの掲載も大歓迎です。お値段等、お気軽に義太夫協会までお問い合わせください。

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助
鶴澤賀寿・竹本駒佳・竹本越里

謹 賀 新 年

日本素義会

第106回 5月13日(土) 鳥越神社白鳥会館

新加入 大歓迎! ふるってご参加ください

詳細は菅野昌行まで

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品
の御注文承ります。



きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14

TEL/FAX 03-3466-2156

P.H.S 070-5457-5687

kimura-wanoshirabe@nifty.com



〒162
0825
東京都新宿区神楽坂四二二
TEL/FAX 03(3316)5011

料理
室

義太夫協会公演記録音源CD 好評発売中

◇ 最新作「近頃河原の達引 堀川猿廻しの段」◇

二代目竹本綾之助・鶴澤三生 昭和34年1月1日本牧亭での記録録音

義太夫協会本牧亭公演音源オンデマンドCD(CD-R盤) 各1,500円(税込)

壺坂観音堂験記／新版歌祭文／絵本太功記／御所桜堀河夜討／伊賀越道中双六／生写朝顔話
艶容女舞衣／義経千本桜／伊勢音頭恋寝刃

義太夫協会公演音源CD(プレス盤) 各税込

心中紙屋治兵衛「河庄の段」 竹本土佐廣・鶴澤友路 2,160円

近頃河原の達引「堀川猿廻しの段」 竹本駒之助・鶴澤津賀寿・鶴澤寛也 3,024円

姫山姥「廓漸の段」 竹本駒之助・鶴澤津賀寿・鶴澤寛也 3,240円

ご注文後10日前後でお届けいたします。送料等詳しくは義太夫協会にお問い合わせください

永谷 謹賀新年

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭 お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭 新宿永谷ホール



地域と共に進む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

代表取締役	渡辺 康成
常務取締役	高山 早苗
専務取締役	渡辺 貞穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684